

中学生用

青淵

・こころざし  
・歳時記

〜深谷のこころをつむぐ〜

深谷市教育委員会

# 『青淵・こころざし歳時記』く深谷のこころをつむぐくを手にするみなさんへ

深谷市教育委員会教育長 小柳 光春

人は、誰もが「夢」を抱き、これを「こころざし」として掲げ、自分の人生を歩んでいきます。その道のりは、決して平坦ではありませんが、自らを叱咤し、友を思いやり、社会の中で助け合い、「夢」の実現に一步一步近づいていくのです。深谷市では、このような子どもたちの自立と成長を手助けしています。

そのため、深谷市では、郷土の偉人である渋沢栄一翁の教えを受け継ぎ、栄一翁が生涯を通じて大切にしていた「立志の精神（夢とこころざし）」と「忠恕の心（まごころと思いやり）」をはぐくむ教育を進めています。

平成二十四年度からは、栄一翁の思いや願い、生き方にふれることのできる資料として「渋沢栄一こころざし読本」を市内全小・中学生に配布し、道徳の時間を中心に活用しています。

このような中で、この「青淵・こころざし歳時記」は、さらに、わたしたちが、よりよい人間関係を築き、社会生活の秩序を維持するために、欠かすことのできない「礼節（礼儀と節度）」を大切にする内容を加えるとともに、深谷市や各学校の特色ある活動等を織り交ぜ、月ごとにテーマを決めて学べるように構成しました。みなさんには、繰り返し、読んだり、暗唱したり、視写したりしながら、自分の心を見つめてほしいと思います。

また、児童生徒及び保護者や地域のみなさんが、目標の実現に向けて努力することによって、夢を「ふ」くまさせ（立志）、思いやる気持ちを積極的に相手に「つ」たえ（忠恕）、時と場に応じたふさわしい態度を「か」んがえる力（礼節）をより一層心に刻み、これらが「ちゃん」と実践「で」きるように、また、まわりの人にも「す」すめられたら、すばらしいことと思います。

ふるさと深谷に住み、育つ、みなさんの心に響き、いつまでも広く活用されることを願い、この『青淵・こころざし歳時記』く深谷のこころをつむぐくを刊行いたします。



「ふっかちゃんです」を  
合言葉に、「青淵・こ  
ころざし歳時記」を読ん  
で、自分の心を成長させ  
ていきましょ。

ふくらむ夢  
つたえる気持ち  
かんがえる力  
ちやんと  
できます  
すすめます



深谷商業高校 二層楼

# 夢七訓

夢なき者は理想なし

理想なき者は信念なし

信念なき者は計画なし

計画なき者は実行なし

実行なき者は成果なし

成果なき者は幸福なし

ゆえに幸福を求めらる者は夢なかるべからず



深谷栄一翁の胸像  
深谷商業高校「二層楼」資料室

「成功は君の夢から始まる」

鳥羽 博道氏 寄贈

※この「夢七訓」は、深谷栄一翁が残したものとされています。

## 目次

☆	腰骨タイム・夢を語る	4
四月	満開の桜がほほえむ	6
五月	花に気持ちをたくす	8
六月	さわやかな朝をむかえる	10
七月	お祭りで絆を深める	12
八月	将来への夢をふくらませる	14
九月	努力を積み重ねる	16
十月	今できることに全力を尽くす	18
十一月	すみきった空の下で自らを磨く	20
十二月	郷土を愛する	22
一月	社会の扉をたたく	24
二月	夢をかなえる	26
三月	こころざしを立てる	28
☆	立志と忠恕の取組	30
☆	「明日」へ	32



「緑のバトン運動」深谷市全小中学校で岩手県田野畑村の森づくりに協力しています。



## 腰骨タイムです！

一日一回試してみませんか？

- ① いすに浅く座る。
- ② 両足をピタリと床に着ける。
- ③ おしりを思い切り後ろに突き出す。
- ④ 反対におなかを前に出す。
- ⑤ 肩や胸に力を入れないで、両手は太ももの上に置く。
- ⑥ 下腹に軽く力を入れる。
- ⑦ 軽く目を閉じ、息をゆっくりとはききる。
- ⑧ おなかで空気を吸い込む。一分間で四〜五回呼吸し、気持ちを落ち着かせる。

## 腰骨を立てる子

菱木 秀雄

下はらに力を入れて腰骨をシャンと立ててごらんかたやむねに力を入れないであごを引きましよう

すばらしい姿勢です  
元気な体のもとです  
あたまがすんできます

あなたのわがままに克かてる姿勢です  
あなた自身を見なおせる姿勢です  
きびしい世の中をのりきる姿勢です



夢を語る時間です！

あなたの夢は何ですか？ 自由に書いてみよう！

★ 中学校一年生

★ 中学校二年生

★ 中学校三年生





## 四月 満開の桜がほほえむ

君へ

これから始まる中学校生活に  
期待と不安で胸がいっぱいだった入学式  
一人でぼつりと座る君がいた  
君に初めて会った日

さみしそうというほどではないけれど  
一人でほおづえをついて  
ぼんやりと黒板を見ていた

はじめは好奇心から君を見つめていた  
どんな子なんだろう  
どんなことを考えているんだろう

でもだんだんと心配になってきた  
君が笑わないことに気づいたから

何か困っているんじゃないかな  
本当はさみしいんじゃないかな  
君のことが知りたくて  
いつもじっと見つめていた

君のために何かできたらいいな  
心からそう思った

たいしたことはできないけど



君のことを知ろうとすると  
君のことが少し理解できるようになった

君は口下手だから  
はつきりとした言葉にはならないけど  
私には伝わってくるよ  
ありがとうって思ってくれてること

君はひかえめだから  
はつきりとした行動にはならないけど  
私にはわかるよ  
一緒にいたって思ってくれていること

君に出会えて優しくなれた  
君といると笑顔になれた

自分のためでなく誰かのために  
できることがあるって素敵だな

私の思いが伝わったのかな  
心と心がつながった気がして  
本当に本当にうれしかった

君の笑顔で私は幸せになれる  
私も誰かを幸せにしてあげたい  
誰か一人の笑顔で  
みんなが幸せになれることだってある

こんな大切なことを気づかせてくれた君へ  
「ありがとう」



あなたの友情・思いやり・親切ってどんなのかな？



## 五月 花に気持ちをたくす

### 花でつなぐ

僕らの学校は、春の「深谷オーブンガーデン」に参加している。毎年大勢の人たちが見学に訪れる。お見えになったお客さんに「すごいねえ。」「きれいだねえ。」「ありがとう。」などと言葉を掛けていただいたことがとても嬉しく、今年も私は花壇作りに参加し、案内係もかって出た。

次から次へと集まってくるお客さん達に元気にあいさつをしながら、手作りのパンフレットを手渡し、コースに従って案内を始めた。

クリスマスローズ園の前で、「入試の時期に花をつけますが、クリスマスローズの花は落ちないので、三年生の先輩達が全員合格する



「ふかや花フェスタ」 深谷城址公園

ことを願って二年生が植えました。クリスマスローズの花言葉には「私の不安を取り除いてください。」とか「私を忘れないでください。」などの意味もあるので、毎年咲くように手入れをしています。」と説明すると、お客さんの一人が「うちの孫も今年受験だけどねえ…」と呟いていた。

後日、学校に手紙が届いた。「花いっぱい、きれいな学校を見学させていただき、とても心が和みました。何よりも感動したのは、案内をしてくれた生徒さんの笑顔と優しさでした。花の手入れをしっかりとできることが他人を思いやる心につながっているのだなあと思っています、私は、孫が通う学校の花ボランティアを始めました。」という内容だった。

花を通して僕たちの思いが広がっていく気がした。



「深谷オープンガーデン」

※深谷オープンガーデン  
平成十六年から始まったボランティア活動で、花でつながるまちづくりに貢献しています。庭で会話が生まれ、訪れた人の笑顔が見られます。



あなたの優しさは、相手に伝わっていますか？



## 六月 さわやかな朝をむかえる

### 帽子

朝の通勤はゆとりをもっていたいと思いつながら、毎朝、車のハンドルを握る。その途中、道路を横断するタイミングを待っている小学生の通学班に出会う。

今朝もそうだった。私の車しか走っていないので、このまま通過してしまおうかと一瞬迷ったが、思い直して車を止めた。

旗を持っている班長さんらしき少年が、横断する道の中ほどに出て、旗をかざして下級生を渡してゆく。渡し終えると少年も足早に道を渡る。そしてくるりと向きを変え、ぺこりと帽子をとってあいさつをした。



この「帽子ぺこりあいさつ」にはじめて出会った朝、私は思わぬできごとによりとした。

少年の仕草がもたらした清々しさに、私はしばらく包み込まれていた。そして少年にもらったばかりの「帽子ぺこりあいさつ」の喜びを、職場の仲間に話さずにはいられなかった。

この道路を使い始めてから十年あまりが経っている。その間「帽子ぺこりあいさつ」は、次の班長さん、その次の班長さんへと受け継がれ、今朝もまた、今年の班長さんの「帽子ぺこり」に出会った。

入学した一年生の真新しい黄色いランドセルカバーを横目で見送りながら、今日も得をした気分で車を発進させた。



礼儀正しい人に接すると、どんな気持ちになりますか。



七月 お祭りで絆を深める

【みんなまで】

一つのこと

全力で

取り組んでこそ、

【絆】が生まれる。



深谷まつりは、昼から夜まで目が離せないまつりです。

まつりの見どころは、なんとといっても各町会による、昼の「みこしパレード」。

みこしを担ぐ浴道には大量の水がスタンバイ。猛暑になりやすいという深谷の土地柄か、夏のみこしに水をかける風習があり、見ていて迫力がある。

みこしで水浸しになった道路が乾く間もなく、KOSASOソーラン、踊り流しが始まる。道路には多くの参加者と観客が詰めかけ、日が傾きはじめるまで踊り続ける。

夕方からは、深谷まつりのメインである

夜の「みこしパレード」、「山車・屋台の叩き合い」のため、各会所からそれぞれが駅前に向け出発。

駅前のおまつり広場には、十一基の山車・屋台が勢揃い。

勢いのある「さんてこ囃子（通称・喧嘩囃子）」が大音量の迫力で楽しませてくれる。

さらに叩き合いの中を数台のみこしが通り、まつりはクライマックスに……。

各町会の人々が心を一つにし、

「みんながまつりを成功させる」という同じ気持ちをもって、みこし・山車・屋台に情熱を注ぐ姿に胸が熱くなる。

みんなが一つのことに取り組んでこそ、『絆』が生まれる。

どうしたら、みんなが一つになれるかな？





## 八月 将来への夢をふくらませる

一七五七年 夏

ふるさと、川本を後にし、  
江戸に向かう青年がいた。

「お前を見守っている赤城山の  
勇姿を忘れないように」

父からの言葉を胸に赤城山に向かって  
大数学者になることを決意する。

青年は大願を叶え、後に日本を代表する  
数学者へと成長する。

藤田雄山、二十三歳の旅立ちであった。



赤城山

藤田雄山（一七三四〜一八〇七）

本田村（現在の深谷市本田）に本田家の三男として生まれる。二十三歳で大和新庄藩（現奈良県葛城市新庄）の藤田家へ養子に入ると、當時和算の主流であった関流の三代目後継者山路主任に弟子入りする。次第に頭角を現し、山路の手伝いとして幕府の天文方において改暦の作業に従事。三十三歳で山路から関流免許を授かり、四代目後継者として認められるが、目の病にかかり三十四歳で天文方の仕事を辞める。この後、筑後久留米藩（現福岡県久留米市）の藩主有馬候に江戸詰め算学師範として召し抱えられると、雄山の元にはたくさんの弟子が集まるようになり、以降、雄山は多くの後進を育てながら、自らも常に学び続け日本を代表する数学者となった。

夢をこころざす強い気持ち、今、あなたの中にありますか？



## 九月 努力を積み重ねる

### 秘密の練習

「わたし、幼稚園で秘密の練習しているの」

五歳になったばかりの妹が言った。

「秘密の練習？」

僕は不思議に思った。

「逆立ち歩きの練習だよ。朝、お友達と先生と内緒でやっているの。私だけできないの。」

数日後、

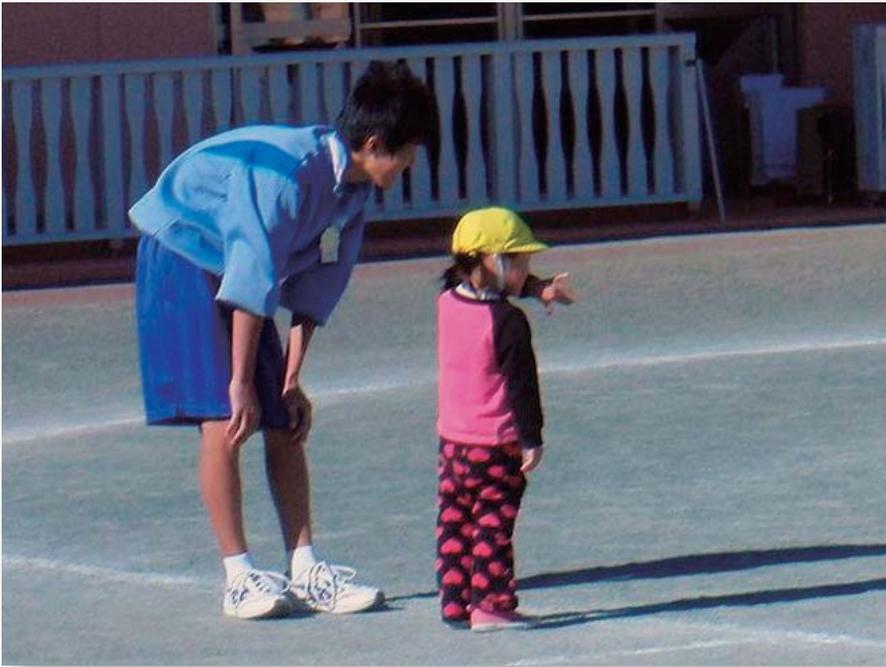
「逆立ち歩きできたよ！」

妹の満面の笑顔とともに報告が届いた。

今朝も妹は秘密の練習のために、ちよっと早く登園する。

「今度は何の練習やるのかな？」

妹を見送った僕は、靴紐くつひもを結ぶ手に力が入った。



私たちは今日まで、  
明るい笑顔で  
あいさつを交わし、  
清潔感あふれる服装で  
時間を守って行動し、  
落ちているゴミを拾い、  
みんなが使う場所を  
無言で清掃してきました。

そして、今日、  
このステージに立っています。

すべてはこの一曲で、  
会場のお客様に感動を与えるために……

目標を達成するためのあなたの努力は、どんなものかな？



## 十月 今できることに全力を尽くす

「ゲームセット!」

負けた。いい試合だったとはいえ、負けは負けだ。正直、悔しかった。

試合の後、監督は、

「この経験を生活に活かせ。」

といった。そのとき僕は、この二年間で何を学んだのかを確認したくなった。

普段から先生は、

「部活も勉強も生活もすべてつながっている。」

と言っていたが、その意味はよくわからなかった。僕にとっては全く別の物だった。だから野球に対しては真剣に取り組んだが、生活態度はよいとは言えなかった。提出物は出さない、そして授業では周りに迷惑をかけ、家では両親に反抗的な態度をとっていた。先生からは叱られてばかりだった。

今、思い返せば、先生はそんな僕を見捨てず、あきらめず、よく見てくれていたと思う。叱られるのは嫌だったけれど、大切にしてもらっているということがわかって嬉しかった。両親は優しくかった。ユニフォームの洗濯、一日練習のときのお





弁当。いつも僕を全面的にサポートしてくれていた。先生にも両親にも感謝はしているが、それをなかなか言葉で伝えることができない。

もう一度自分に聞いてみる。僕はこの二年間で何を学んだのか。わかったこと。それは、僕はたくさんの人に支えられてここまで頑張れたということ。この気持ちを僕は態度で示そうと思う。今できることを全力でやること。これが唯一伝えられる方法だ。

今日までの経験はこれからの糧かたになるだろう。グラウンドでの戦いが終わり、次は受験という戦いが始まる。

## 人間性の向上なしに技術の向上なし

色々な人々の支え、応援に気付き、感謝の気持ち芽生えれば人は成長し、取り組み方が変わり、仲間意識、自己犠牲の精神が育ち、痛いこと、辛いことから逃げなくなる。

### 「KEEP CHANGING」

### 進化し続ける！

ラグビー高校日本代表監督  
埼玉県立深谷高校ラグビー部監督 横田典之先生の言葉より

「すべてがながっていき、このことを見つめてみよう。」



## 十一月 すみきった空の下で自らを磨く

### タンス

秋の日没は思いのほか早い。さっきまで明るかったのに、気づくともう真っ暗だ。

深谷の街角に年代ものの看板がかかる建具屋がある。小さな店のガラスから灯りがもれて、中からは作業の音が聞こえてくる。

数年前のことだ。家を建て替えることになり、古い家財道具をどうするかが話題になった。あらかたは家と共に処分すると決まったが、亡くなった祖母が使っていた古い桐タンスは、削り直してみることで家族の意見はまとまり、建具屋に預けた。

新しい家ができた日、タンスは我が家に戻ってきた。古ぼけたタンスだったし、上等な品でもなかった。さほど期待もしていなかった。しかし、丁寧に削られ、金具も付け替えられた。すっかり生まれ変わったタンスに家族全員が見とれ、「処分しなくてよかった」と口々に言った。タンスは新しい母の部屋に収まることになった。次は、私が使わせてもらおうとひそかに決めている。

【桐タンス削り直し】の札がかかる街角の小さな建具屋では、今日もまた、どこかの家のタンスの命がよみがえっているのだろう。



「子曰く、君子はこれを己に求め、小人はこれを人に求む。」

君子は、自分を責めることが多く、すべてこれを反省し、徳を日々積んで自分を磨いていきます。しかし、小人は、これを他人に求めて自分を反省することがないのです。



欠けているところがあるからこそ、内なる光があふれる

「緑の王国」あかり展





## 十二月 郷土を愛する

十二月 深谷ねぎが  
一段とおいしい季節だ  
深谷に初めて来た人は  
ねぎ畑の多さに驚くらしい  
でも本当に知ってほしいことは  
私たちのねぎに対する愛情だ  
全国のねぎの中で一番甘い  
私たちのねぎ  
給食で「ねぎぬた」が出る目を  
みんな楽しみにしている  
深谷駅の発車メロディーは  
「おねぎのマーチ」  
一月に開催される  
「深谷ねぎまつり」  
ねぎの角が生えている  
ゆるキャラ「ふっかちゃん」



私たちのねぎは生活の  
いたるところにあるのだ  
私たちのたくさんの  
愛情をうけて  
これからも立派に育て！  
深谷ねぎ！

## おねぎのマーチ

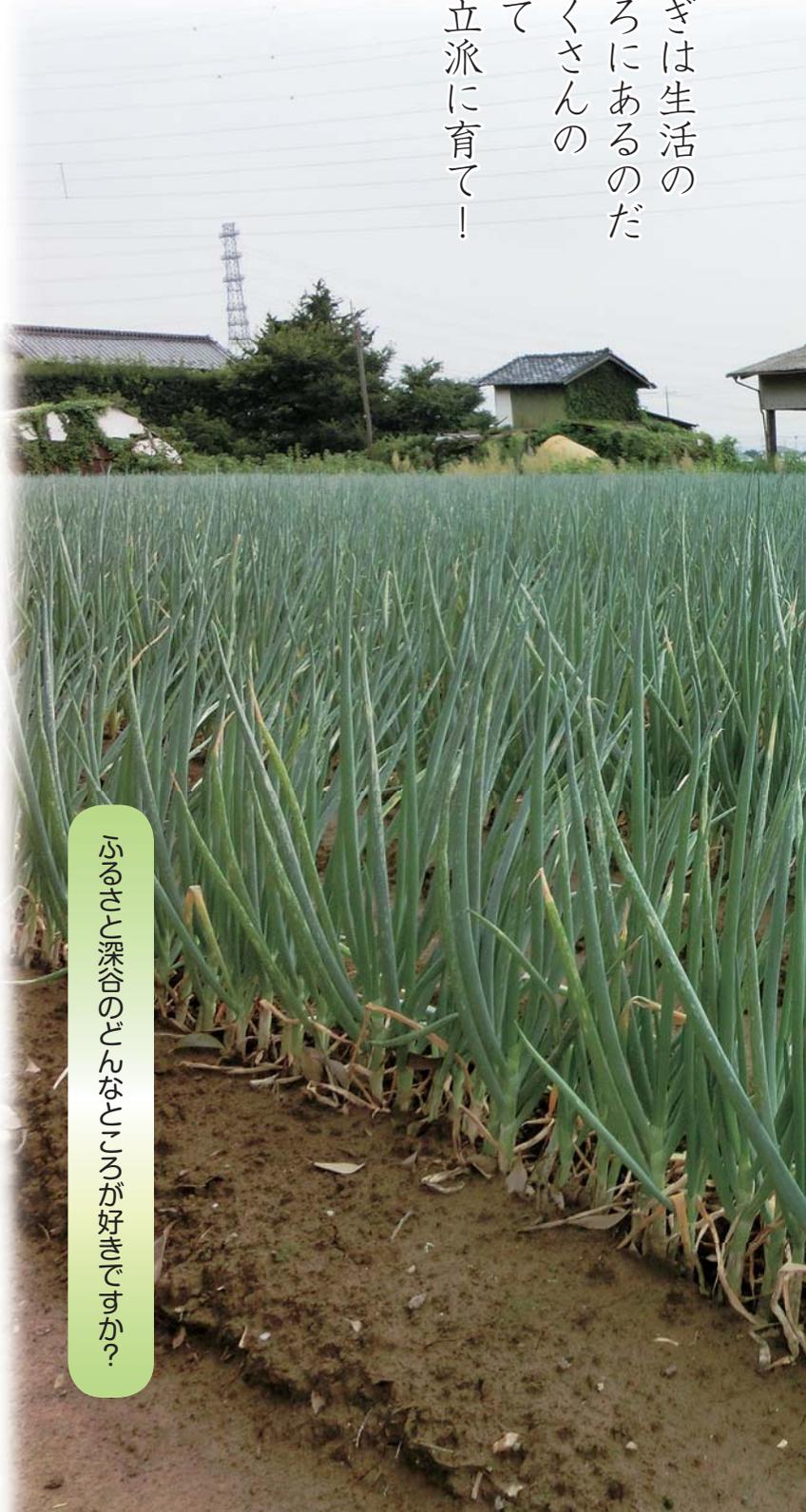
おねぎだよ おねぎだよ  
白くて ながーい あんよにさ  
ふるいつきたくなるんだと  
鴨が言うのさ 利根川の  
おねぎだよ おねぎだよ  
みどりの帽子が 風を切る  
深谷育ちの人気者  
おねぎのおねぎのマーチだよ  
シャッキ シャッキ シャッキ  
ガッツ ガッツ アンド ゴー

作詞 星野哲郎

作曲 平尾昌晃



ふるさと深谷のどんなところが好きですか？





## 一月 社会の扉をたたく

### 夢に向かって

「将来、なりたい職業はなんですか。」

こう問われたとき、私は迷いなく答えを出すことができるだろう。なぜなら、今の私は「保育士になりたい。」という固い決意を持っているからだ。小さい頃の私はなりたいものがいくつもあつた。そして、つい最近までも、こんなに固い決意はなかった。私の決意を固めたのは、ある一つの出来事だった。

中学二年生の夏休み、私は「社会体験チャレンジ」という行事で、保育園に来ていた。もともと小さい子の世話をするとか、一緒に遊ぶことが好きだった私は、保育園での体験をすごく楽しみにしていた。だが、現実はそう甘くはなかったのだ。

体験の初日、私は担当の先生方にあいさつをし、0才児の教室へと向かった。数名の園児が楽しそうに遊んでいた。いざ、その子たちのそばへ行ってみると、ほとんどの子が先生の方へ逃げていってしまった。先生によると、まだ人見知りをする子が多いので、仕方のないことらしいが、さすがに少しシヨックだった。

体験二日目。この日は、三、四、五才児のクラスを体験した。園児達はとにかく元気で、ついていくのに一苦労だった。特に大変だったのは、寝かしてくれることだった。園児達は私に、「ふとん、トントんしにきて。」と言ってくれるのだが、全員にすることはもちろんできず、一度に二人が限界だった。それに、なかなか寝ついてくれないのだ。そんな苦労も



社会体験チャレンジ（職場体験学習）



あったせいか、園児が眠ったときは喜びがこみ上げてきた。

体験最終日、私は一才児のクラスを体験したが、一才児の園児はけんかをするや噛みついたり、手を出してしまったりで大変だった。私はこの三日間の体験で、保育士という仕事の大変さを知ったのだ。しかし、最終日に行った先生方へのインタビューが、私の決意を固めることとなった。質問の内容は、「保育士という仕事をしていて、どう感じるか」ということだった。その質問に対しての答えが、私の心を動かしした。

「苦しいとき、つらいとき、大変なときだったたくさんある。だけど、園児たちの笑顔を見られるから頑張れる。保育士は、とてもやりがいのある仕事だよ。」

この答えを聞いたとき、私はこのような考えを持った。「楽しいだけが仕事じゃない。つらいことも大変なこともあるからこそ、やりがいがあって楽しくなるんだ。」

その体験から数カ月、私は初めて自分の夢をみんなに語ることとなった。「立志式」という行事で、自分の夢を体育館の壇上で、たくさんの人に語るというものだった。私はあの体験から、固い決意があったものの、それを口にする機会はなかった。初めて夢を語るということに緊張していた私だったが、本番は、自分の言葉で、夢を語ることができた。それに、たくさんの人に聞いてもらったことによって、私の中でも「保育士になる。」という決意がより一層固まったような気がした。

私は今、保育士という職業を目指している。明確な進路がしっかりと決まっているわけではない。けれど、「保育士になりたい。」という私の意志は確かである。これから、保育士になるまでに、たくさんさんのことを乗り越えていく必要がある。そのときは、先生のあの言葉、立志式によって一層固められた決意を思い出し、励みにしていくだろう。夢に向かって、どんなことにもチャレンジしていきたい。



青少年健全育成深谷市民大会「中学生の主張」より

社会体験チャレンジ（職場体験学習）で、何を学びましたか？



## 二月 夢をかなえる

### 地域医療活動家 女医 生沢クノ

生沢クノは、一八六四（元治元）年、埼玉県深谷市に開業医生沢良安の三女として誕生しました。教養的・文化的には恵まれた家庭でしたが、父良安が生活が苦しい人からは医療費を取らないなど、「医は仁術なり」の思想を地でいく医師であったため、必ずしも経済的には裕福とはいえなかったようです。

クノは幼い頃から、父良安の医師としての生き方を見ながら成長したので、心から父親を尊敬していました。

クノは、将来医師になって、尊敬している父親の手助けをして親孝行をしたいと考えました。また、クノの頬に生まれつきあった大きなアザも、医師を志す動機になったと思われれます。

クノは十三歳のある日、両親に「医者になりたい」と告白しました。当時、医師になるには、医術開業試験という国家試験に合格しなければなりませんでしたが、その受験資格は、女子には認められていませんでした。明治初期、明治維新によって日本は近代化を目指してはいたも



生 沢 ク ノ

の、女性が医師になる道は、制度的に固く閉ざされていた時代でした。

両親は反対しましたが、クノの志があまりにも固いということがわかり、結局同意することになりました。

両親の許しを得たクノは、女医を目指して上京することになりました。自分のためだけなら、何も好んで女医に挑戦するという苦難の道を選ばなくても、医師の子として、父親の手伝いをして、平穩に生活を送りながら親孝行ができたはずです。女医になれない時代に、あえて、様々な苦難が予想される医学の道にチャレンジしようという志を立てたのは、並々ならぬクノの決意があったからだと思います。

クノは上京して、まず東京九段にある止敬塾

に入門し、十六歳になると、見習い生として採用され、産婦人科の名医山崎元修やまざきげんしゅうの指導を受けました。しかしクノは、正式に医学を学びたいという志から、十八歳の時、私立東亜医学校に女性として特別に入学しました。

同校は全員が男子学生で、クノはたった一人の女子生徒でした。おしゃれ盛りの年頃であったはずでしたが、クノは、男子のように髪を短く切り、衣服は男物を着て通学しました。

クノは、別教室が与えられ、孤独な勉強となりました。それに加え、男女差別の風潮が強く残っている時代でしたので、男子学生からからかわれるなど、精神的苦痛は大変なものがあつたと思われます。しかし、クノの志は固かったので、つらい学生生活にも耐え抜いたのです。

クノは、一八八三（明治十六）年、十九歳の時、東京府と埼玉県に医学試験請願書を提出しました。ともに却下されてしまいましたが、その後も、女性にも医師開業試験に受験資格を認めるように訴え続けました。時を同じくして、女医を目指していたのが、深谷に隣接する熊谷市出身の荻野吟子でした。二人に交流の機会はありませんでしたが、共に働きながら受験資格を獲得するための活動をし、女性に対する偏見・差別・いじめにも耐えて、戦い抜きました。

その努力が実り、翌年、女性にも受験資格が認められました。そして一八八五年、試験に合格して女医第一号となったのは、荻野吟子でした。クノは、過労のため、病気に倒れ、受験を見送らなければならなかったのです。必死の思いで、ようやく勝ち取ったチャンスを生かせず、受験を一年先に見送らなければならなかった無念さは、どんなだったでしょうか。

結局、クノは、一八八六（明治十九）年に合格し、二十三歳でわが国第二号の女医となりました。女医になる志を遂げた満足感と、正式に開業医の資格を持って、父良安を助けられるという希望を胸に深谷に帰りました。その後は父を助け、深谷など埼玉県北西部を中心に、地域医療に献身しました。父良安が他界した後も、地域医療のために一生を捧げ、一九四五（昭和二十）年、八十一歳の生涯を静かに閉じたのでした。

荻野吟子や生沢クノはじめ女性医師たちは、時代の先駆者として艱難辛苦かんなんしんくの人生を歩みました。この日本初の二人の女医の生涯が、他から見て幸福であったかどうかはわかりませんが、二人とも天命を全うした生涯でした。

郷土の偉人から、どんな生き方を学びましたか？



## 三月 こころざしを立てる

### 明日

明日を迎えることは

決して楽なことじゃない

楽じゃない

期待も不安も全部全部

明日は持っているということ

十五年間でわかったこと

明日を迎えにいけるって

すぐくすぐくしあわせなこと

自分から明日を迎えに行くことを

自分から生きることを

やめてしまうのはもったいないこと

これも十五年間でわかったこと

この先何があったって

自分で明日を迎えに行く

これは十五年間で決めた

私の決意

私の決意



## 十五歳

幼さの残る表情にたくさんの方の期待を詰め込んで中学一年生になります。新しい仲間とうまくやっていけるのだろうか、勉強はついていけるのだろうか、あれやこれやを思い、十三歳は新生活をスタートさせます。

先輩のたくましさにもまず目を見張る部活動では、小さいさかいかいも何度かあります。しかし、毎日練習に取り組んだ部活動は、やがて三年間の中で一番の思い出に形を変えてゆきます。

学習でも悩みます。テスト後に渡される自分の位置を示す結果に、何度一喜一憂することでしょう。他の人と比べる必要がないと思いつつも、比べてしまう自分に苦しむのです。

体育祭と音楽会もあります。失敗や成功を経験すること、協力する喜びを味わい、一人一人が輝き、集団はいつそう輝きを放ちます。仲間と団結する喜びは、十四歳が前に進む力となってゆきます。

そして、最後に待っているのが、進路選択です。十五歳の心は不安に押しつぶされます。何度も何度も「本当にこの道でいいのか」と自問します。迷いながら自分で答えを出します。十五歳なりの答えを必死に見つける、その過程で十五歳はたくましく成長してゆきます。

「人生なんて思い通りいかないことのほうが多いのでしよう。でも、私なりに頑張って進むからね。」十五歳はそう言って、中学校を卒業してゆきます。

※立志式

自分の夢やこころざしについて発表する学校行事



中学校生活を振り返り、自分の成長を確かめてみましょう。



## まごころ訪問

一人暮らしのお年寄りに、  
花と手紙を届けます。



## 田野畑村へ

こいのぼりにのせて、被災地  
の田野畑村に応援メッセー  
ジを届けました。今は、森づく  
りの苗木を育てています。



## 忠恕の心

まごころと思いやり



## 手紙でつむぐ「ありがとう」の思い

感謝の気持ちを手紙で表し、「ありがとう」があ  
ふれる深谷の街づくりを目指します。



## まごころ先生

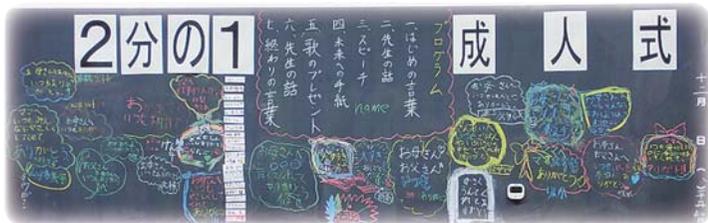
道徳の時間で、渋沢栄一翁  
の生き方を学びます。





## 1/2成人式

10歳になった4年生が、未来の夢を語ります。



## 産業祭への参加

産業の特色を知り、地域振興に貢献します。



## 社会体験チャレンジ

職業体験学習で、働くことの意義を学びます。



## 立志の精神 夢とこころざし



## 深谷科学塾

専門機関を見学し、最先端の科学技術を学びます。

## 立志式

中学生が、将来の夢やこころざしについて語ります。



## 深谷国際塾

世界で活躍する人から話を聞き、世界に貢献する心を育みます。





深谷駅

## 「明日」へ

「明日」というのは、人やものではない。「明日」は目に見えないけど、「明日」がなければ人間は生きることができない。目に見えないものに「ありがとう」というのは、少し変かもしれないが、僕は「明日」があることはとても幸せな事だと思う。今日という日がつらくてくじけそうになったとしても、「明日」があればまた新しいことにチャレンジすることができる。「明日」がくるのはあたり前ではない。だから僕は「明日」に「ありがとう」と言いたい。「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」作品より

ありがとう

「ありがとう」をふれまわろう

手紙でつむぐ「ありがとう」の思い

深谷市教育委員会

# 平成二十五年 深谷市道徳資料作成委員会委員及び協力者

## 作成委員

松島 猛	岡部中学校長(委員長)
松村 郁己	上柴東小学校長(副委員長)
木村 彩乃	幡羅小学校
本多 斎士	深谷小学校
加島 佳子	藤沢小学校
関根千鶴子	上柴西小学校
栗木 恭子	上柴東小学校
久保 清美	豊里小学校
須藤喜美子	岡部小学校
佐澤かおり	本郷小学校
篠原 麻衣	川本北小学校
坂下 徳子	花園小学校
大井慎太郎	幡羅中学校
宇山 康子	深谷中学校
大竹 真人	藤沢中学校
神田さおり	豊里中学校
清田 恵理	岡部中学校

## 生徒作品

森 可奈恵	深谷中学校三年(二十四年度)
川田 翔	岡部中学校三年(二十五年度)
橋本 成美	花園中学校三年(二十五年度)
市川 遥也	上柴中学校二年(二十五年度)

## 協力

新井 慎一	新井 慎一 記念館解説員
篠田鼎一郎	渋沢栄一記念館解説員・元小学校長
梶並 勉	元小学校長
猪野 幸男	元高等学校長
清水 勉	花園中学校長(写真)

## 事務局

学校教育課	課長	片桐 雅之
学校教育課	主幹	持田 栄
学校教育課	課長補佐兼指導主事	浅見 哲也
学校教育課	課長補佐兼指導主事	荻野 浩和

### 「青淵・こころざし歳時記」

〜深谷のこころをつむぐ〜 平成二十六年三月発行

発行 深谷市教育委員会  
編集 深谷市教育委員会学校教育課

〒三六六―〇八二三  
埼玉県深谷市本住町一七番三号  
TEL 〇四八―五七二―九五七八  
FAX 〇四八―五七四―一七四四  
HP <http://www.education.fukay.saitama.jp/>



年 組	1年	組	名 前	
	2年	組		
	3年	組		